

令和2年度「朝河貫一博士から学ぶ ふくしまの未来 講演会」実施報告

「朝河貫一の歴史学の現代的意義 — 「日欧比較封建制」から「日本人の国民性」の分析へ—

講師：甚野 尚志 氏（早稲田大学文学学術院教授）

開催日：令和2年8月10日（月） 14：00～15：30

参加人数：88名 会場：福島県立図書館 講堂

福島県出身の国際的な歴史学者、朝河貫一について講演していただきました。朝河がアメリカのイェール大学で成し遂げた歴史学の業績と、書簡を通じて発信した戦争回避へのメッセージについて、様々な資料を交えながらお話いただきました。

はじめに、2020年1月から2月に早稲田大学歴史館で行われた展示「海を渡ったサムライ～朝河貫一」展を紹介し、そこで福島県立図書館の「朝河貫一資料」展示セットとともに展示された、立子山時代の友人宅で発見された新資料や、早稲田大学演劇博物館が所蔵する朝河から坪内逍遙に宛てた書簡をとりあげ、朝河の立子山時代の恋愛や坪内逍遙との関係などについて解説していただきました。

また、朝河貫一の歴史学研究の功績について詳しくお話いただきました。朝河は日本における封建的土地所有についてヨーロッパ中世の封建制と比較分析し、「比較法制史学者」として業績を残しました。1929年に発行した『入来文書(The Documents of Iriki)』では、日本中世史の史料用語をはじめ英語で体系的に説明し、欧米での日本史研究の基礎を作ったということです。



太平洋戦争開戦の直前、朝河が書簡により戦争を回避しようと努力したことについても、残された書簡を紹介しながらお話いただきました。朝河は自身や友人からの書簡をタイプで打ち直し、多くのコピーを作成してアメリカの友人たちに送り、日本の現状を発信していました。フランクリン・ルーズベルト大統領から昭和天皇への親書送信を働きかけ、朝河自身も草案を執筆したことは知られています。福島県立図書館にもこの草案が残っていますが、同じものが他のアメリカ人にも送られていることや、親書の作成についてはラングドン・ウォーナーからの提案があったことについても触れ、親書草案は朝河を支えたアメリカ人とのネットワークがあっただけあがったものではないか、とのお話もありました。

1940年代には日本人の「国民性」がどのようなものかという研究を行っていたことなども、残された研究ノートを紹介しながら解説していただきました。

参加者は朝河貫一博士の研究や業績に改めて触れ、熱心に耳を傾けているようでした。

※講演会にあわせて、令和2年8月7日(金)～9月2日(水)にかけて、関連する書簡や図書の展示を行いました。
(地域資料チーム 板津恵子)